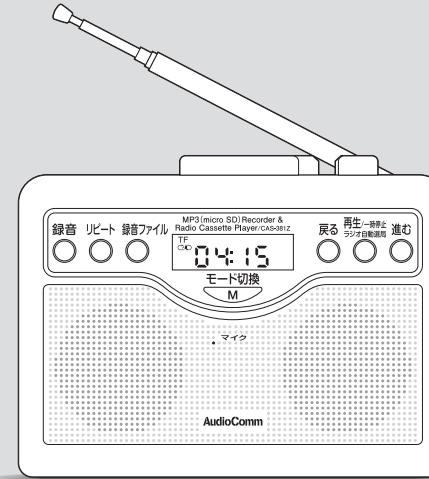


AudioComm®

デジタル録音ラジオカセット

保証書付 取扱説明書

型番: CAS-381Z 品番: 07-9886



このたびは、AudioComm®デジタル録音ラジオカセットを
お買い上げいただき
まことにありがとうございます。

本機の機能を充分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、
ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。
なお、お読みになられた後は、
ご使用時にいつでも見られますように大切に保管してください。

保証書 持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
 - 買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塗装、異常電圧、水掛けなどによる故障及び損傷
 - 消耗または耗耗した部品、付属品の交換
 - 本書のご提示がない場合
- 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合（但し、販売店シールや領収書でも未記入項目の代用となります。）
- ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
- (チ) 一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	デジタル録音ラジオカセット			
型 番	CAS-381Z	品 番	07-9886	保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)
お客様 ふりがな ★お名前	—	—	—	様
修理メモ	電話	()		
★住所 店名 電話	販売店	(印)		

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。

※お客様にて記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきますので、ご了承ください。

◎OHM 株式会社 オーム電機

〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8

<http://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは

お客様相談室へ

●通話料無料

●携帯・IP・公衆電話からは

0120-963-006 048-992-2735

電話受付

※土曜・平日 9:00~17:00

※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

(印)

修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ

電話受付 048-992-3970 平日 9:00~17:00

※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

目次

免責事項	microSDカードを再生する	11~12
安全上のご注意	microSDカードに録音する	1~3 13~15
カセットテープについて	microSDカードに録音した	4
microSDカードについて	ファイルを削除する	4 15
著作権について	イヤホンで聴くときは	5 16
乾電池の入れかた	お手入れのしかた	5 16
外部電源で使用するときは	故障かなと思ったら	5 17
各部の名称	主な仕様	6 18
ラジオ放送を聴く	保証書とアフターサービスについて	7~8 19
カセットテープを再生する	保証書	9~10 裏表紙

免責事項 下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品よりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例



△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
(左図の場合は「感電注意」が描かれています。)



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
(左図の場合は「分解禁止」が描かれています。)



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
(左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。)

警告

	<p>万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感じたら、すぐに電源を切る。</p> <p>AC電源を使用しているときはACアダプター(別売)をコンセントから抜く。乾電池で使用しているときは乾電池を取り外す</p> <p>●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。</p>		<p>分解、修理、改造しない</p> <p>●火災・感電の原因となります。</p>
	<p>万一、内部に水や異物などが入った場合は、使用を中止する</p> <p>●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。</p>		<p>雷が鳴りだしたら、安全のため本機及びACアダプター(別売)に触れない</p> <p>●感電の原因になります。</p>
	<p>ACアダプター(別売)はすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続し、異常が発生した場合は速やかにACアダプターをコンセントから抜く</p> <p>●手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。</p> <p>●本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。</p>		<p>本機やACアダプター(別売)の上に重いものをのせたり、ACアダプターのコードの上に本機をのせない</p> <p>●本機が破損したり、コードに傷がついて火災・感電の原因となります。</p>
	<p>乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が乾電池を誤って飲み込むことがないようにする。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談する</p> <p>●乾電池は幼児の手の届かないところに保管してください。</p>		<p>本機の上に花瓶などの水が入ったものを置かない</p> <p>●火災・感電の原因となります。</p>
	<p>狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどを本機にかけて覆わない</p> <p>●火災の原因となります。</p>		<p>車やオートバイ、自転車などの運転中は使用しない</p> <p>●交通事故の原因になります。また歩きながら使用するときも、他の交通の妨げにならないよう十分にご注意ください。</p>
	<p>ACアダプター(別売)は、必ず本機の仕様に適合した製品を使う。海外でACアダプターを使わない。また、自動車・船舶などの直流DC電源に接続しない</p> <p>●破損や火傷、発煙、火災の原因となります。</p>		<p>落としたり、本機に強いショックを与えたり、圧力をかけたりしない</p> <p>●故障や破損の原因になることがあります。</p>

注意

	<p>ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所、振動の多いところに置かない</p> <p>●落下による故障やけがの原因となることがあります。</p>		<p>落としたり、本機に強いショックを与えたり、圧力をかけたりしない</p> <p>●故障や破損の原因になることがあります。</p>
--	--	--	--

⚠ 注意

禁止	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●本体に悪い影響を与える故障の原因となることがあります。		電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。
	ほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。ほこりがつかないように、カセットテープを出し入れするとき以外は必ずカセットドアを開じてください。		長期間本機を使わないときは、安全のため必ず乾電池を取り外す。ACアダプター(別売)接続時はACアダプターも取り外す ●火災・液もれの原因となることがあります。
	指定以外の乾電池は使用しない。古い乾電池と新しい乾電池、種類の異なる乾電池と一緒に使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。		乾電池を挿入するときは極性表示(プラス+とマイナス-の向き)に注意し、表示どおり正しく入れる ●間違えると、乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	はじめから音量を上げすぎない ●突然大きな音が出て、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。		ACアダプター(別売)とコンセントの接続部を定期的に掃除する ●ACアダプターとコンセントの間にほこりがたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的に接続部のほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
	長時間、大音量で聴き続けない ●周囲の迷惑になつたり、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。		

乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂などの事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

⚠ 警告	・地中への投入、加熱、分解をしない ・取り外した乾電池を幼児に触らせない ・ショートさせない ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない
⚠ 注意	・+ - の表示どおりに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・使用推奨期限内の乾電池を使う ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガントアルカリなど種類の異なる乾電池と一緒に入れない ・使い切った乾電池はすぐに取り出す ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

カセットテープについて

本機ではカセットテープの再生のみ可能です。カセットテープへの録音はできません。

本機で使用できるカセットテープ

- ノーマルテープ(TypeI)をお使いください。ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)には録音できません。また、ノーマルテープについてもC-60(60分テープ)までのテープを使用してください。C-60(60分テープ)を超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので、使用しないでください。
- エントレステープは使用できません。



ノーマルテープ (Type I)
X



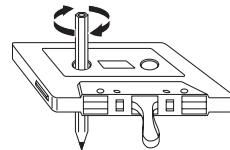
ハイポジションテープ (Type II)
X



メタルテープ (Type IV)

取扱上の注意点

- テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。
- テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- テープ動作中の巻戻し・早送り操作は、テープ巻きつきの原因となることがあります。必ず停止させてから巻戻し・早送りの操作を行なってください。
- テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。



microSDカードについて

本機で使用できるmicroSDカードは最大32GBまで(ファイルシステム: FAT、FAT16、FAT32)となります。また、再生可能なファイルフォーマットは、MP3形式です。

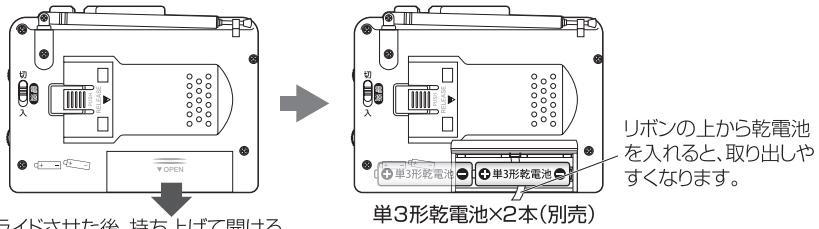
- 再生するファイル容量は1ファイル当たり最大4GBまでにしてください。
- データ消失を防ぐため、ご使用の前にmicroSDカード内のデータを他のメディアにバックアップしてください(弊社ではメディアの破損、データの消失などに関して一切の責任を負いません)。
- microSDカードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行なってください。また、装着する際は、表裏を十分確認のうえ、正しい向きで差し込んでください。無理な力を加えると、本機の接続部やmicroSDカードを破損するおそれがあります。
- 多くの階層を持つメディアは再生が始まるまでに時間がかかります。読み込みを早くするには、以下を参考してください。
 - ・メディア内の階層は8階層までにする
 - ・メディア内のファイル数は50000以下にする
 - ・メディア内のフォルダー数は64以下にする

著作権について

放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

乾電池の入れかた

- ① 本機裏側の電池カバーを矢印の方向にスライドさせた後、持ち上げて開けます(下図参照)。
- ② 本体記載の図柄を参照し、単3形乾電池2本(別売)を $\oplus\ominus$ の向きに注意しながら正しく入れます(コイルバネのあるほうが \ominus です。2本目を入れるときは \ominus 側から入れてください)。
- ③ 乾電池を入れ終えたら、電池カバーを元どおりにしっかりと閉めてください。



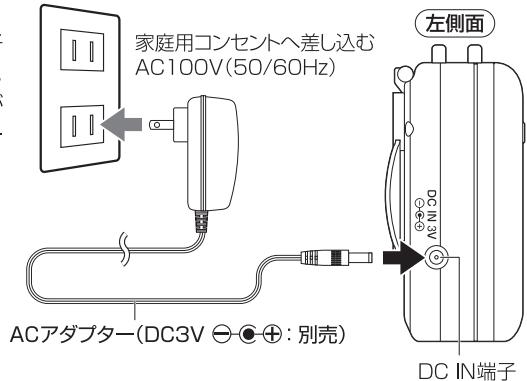
スライドさせた後、持ち上げて開ける。

ヒント

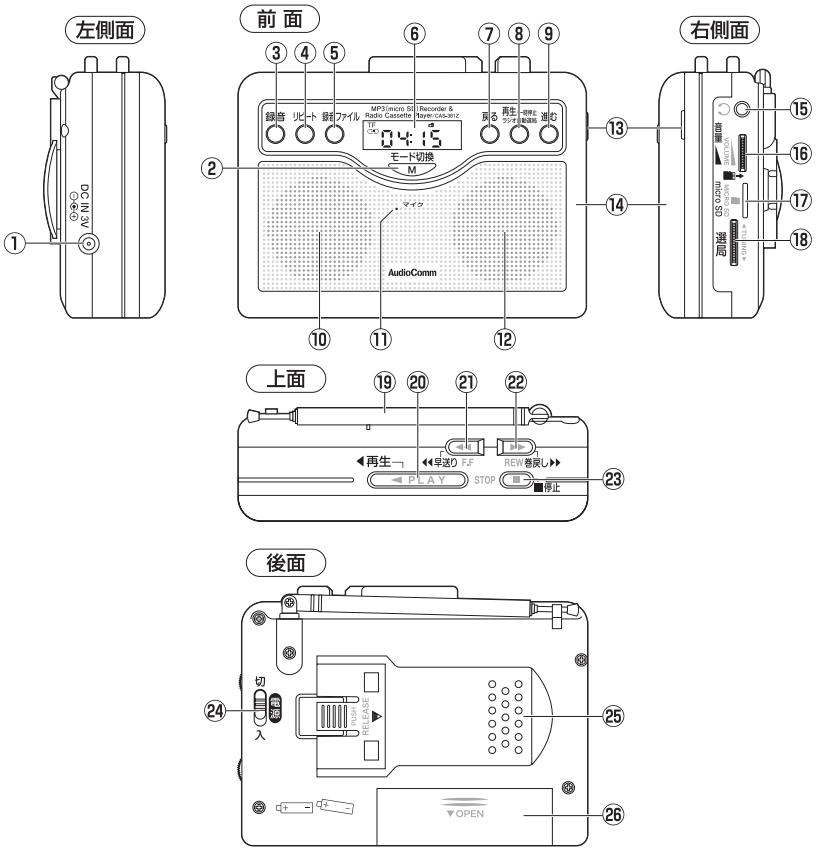
乾電池交換の目安：乾電池が消耗すると、ディスプレイに Low マークが点滅表示されます。また、モードの切り換えやテープ走行が不安定になったり、雑音が多くなります。このような状態になったら、乾電池を新しいものと交換してください。

外部電源で使用するときは

ACアダプター(DC3V $\ominus\bullet\oplus$: 別売)を、本機左侧面のDC IN端子と家庭用コンセントに接続します。DC IN端子に接続すると、乾電池が入っている場合でもACアダプターからの電源供給に切り換わります。



各部の名称



- | | | |
|------------|-----------------|------------|
| ①DC IN端子 | ⑨進むボタン | ⑯選局ダイヤル |
| ②モード切換ボタン | ⑩左スピーカー | ⑰FMロッドアンテナ |
| ③録音ボタン | ⑪録音マイク | ⑱再生ボタン |
| ④リピートボタン | ⑫右スピーカー | ⑲早送りボタン |
| ⑤録音ファイルボタン | ⑬カセットドア開部 | ⑳巻戻しボタン |
| ⑥ディスプレイ | ⑭カセットドア | ㉑停止ボタン |
| ⑦戻るボタン | ⑮イヤホン端子 | ㉒電源スイッチ |
| ⑧再生／一時停止／ | ⑯音量ダイヤル | ㉓ベルトクリップ |
| ラジオ自動選局ボタン | ⑰microSDカードスロット | ㉔電池カバー |
- カセット部

ラジオ放送を聴く

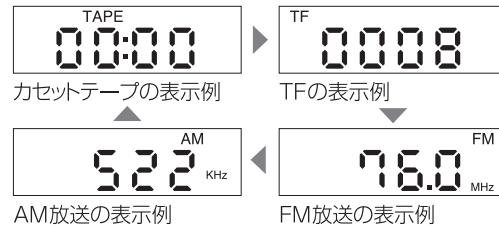
1 電源スイッチを「入」に合わせます。

電源が入り、ディスプレイに「HELLO」と表示された後、「TAPE」と「00:00」が表示されます。



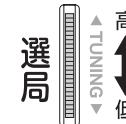
2 モード切換ボタンを数回押して、お聴きになりたいバンド（「AM」または「FM」）を選びます。

モード切換ボタンを押すたびに、TAPE→TF→FM→AMの順に切り替わります。ただし、TFはmicroSDカードが差し込まれていないと表示されません。



3 選局ダイヤルを回して、お聴きなりたい放送局の周波数に合わせます。

ディスプレイに表示される周波数は、実際に受信している周波数と多少の誤差が発生する場合があります。受信状態を確認しながらいちばんよく聞こえる周波数に合わせてください。



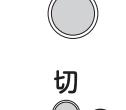
4 音量ダイヤルで音量を調節します。

音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすことがあります。



5 ラジオ放送を聴いているときに再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと音声を消音します。

消音中は周波数表示が点滅します。もう一度押すと、消音が解除されます（再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを長押しすると、自動選局になりますのでご注意ください）。

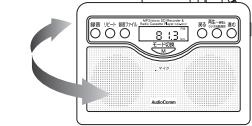
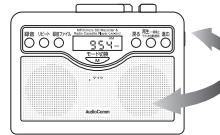


6 使い終わったら、電源スイッチを「切」に合わせます。

受信状態をよくするには

●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●テレビの近くでAM放送を受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機を離してご使用ください。

●周囲のものに当たったり、目を突いたりして危険ですので、持ち運ぶときは必ずFMロッドアンテナを縮めてください。

自動選局について

再生／一時停止 ラジオ自動選局

戻る



進む



ラジオ受信中に再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを長押しすると、周波数が自動で送られ、受信可能な放送局を順次登録していきます（最大30局まで）。

●受信可能な放送局が見つかると、「P」で始まる2桁の数字（プログラム番号）を一時的に表示します。登録が終わると、最初に登録された放送局（P01）を受信します。

●自動選局にて登録した放送局は、戻るボタンまたは進むボタンを押して選ぶことができます。このときも、一時的にプログラム番号を表示し、続いて周波数が表示されます。

●できるだけ電波状況の良い時間帯・場所にて操作してください。

●お使いのエリアが変わった場合は設定し直してください。

●任意の放送局を個別に登録することはできません。

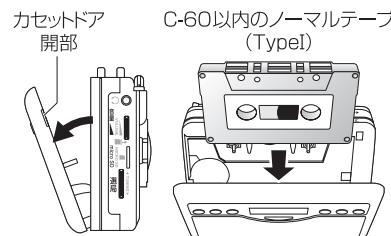
FM補完放送「ワイドFM」について

本機はFM周波数帯域が76～108MHzまであり、FM補完放送「ワイドFM」に対応しています。FM補完放送「ワイドFM」とは、AM放送局の放送区域において難聴対策や災害対策のために新たにFM放送用に割り当てられた90.1～94.9MHz周波数帯域を用いて補完的にAM番組を放送することです。

FM補完放送「ワイドFM」の開始時期、放送局、使用周波数、聴取可能エリアなどは地域により異なります。詳細は各地域のラジオ局ホームページなどをご覧ください。

カセットテープを再生する

- 1 カセットドア開部を引いてカセットドアを開け、再生面を手前(カセットドア側)に、テープの見えるほうを上にして入れます。入れ終えたら、カセットドアを手で閉めます。



- 2 電源スイッチを「入」に合わせます。

電源が入り、ディスプレイに「HELLO」と表示された後、「TAPE」と「00:00」(動作カウンター)が表示されます。



モード切換
M

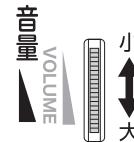
- 3 再生ボタンを押すと再生が始まります。

再生が始まると、動作カウンターが進みます。



- 4 音量ダイヤルで音量を調節します。

音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



- 5 早送りや巻戻しをするときは、停止ボタンを押した後、早送りボタンまたは巻戻しボタンをします。

再生に戻るときも、必ず停止ボタンを押して早送りまたは巻戻しを停止させた後に、再生ボタンを押してください。

停止ボタンを押すたびに、動作カウンターが「00:00」にリセットされます。



- 6 終了するときは停止ボタンを押します。
動作カウンターが「00:00」にリセットされます。



- 7 使い終わったら、電源スイッチを「切」に合わせます。



ヒントとご注意

●動作カウンターについて

再生・早送り・巻戻し時に表示される動作カウンターは、各動作の経過時間を示すものであり、テープの再生位置を示すものではありません。したがって、

- ・早送り・巻戻し動作時も、常にカウントアップし(プラス方向に数字が変化します)、数字が送られる速さも再生時と同じです。
- ・停止ボタンを押して再生・早送り・巻戻しの各動作を終了させると、カウンターはその都度「00:00」にリセットされます。
- ・カウンターの数字は正確な分／秒を示すものではありません。

●再生・早送り・巻戻しの各動作を止めるときは、必ず停止ボタンを押してください。

動作中に停止ボタン以外のボタンを押すと、故障の原因になります。

●セミオートストップ機能について

再生時にテープが最後まで行くと、自動的に再生ボタンが上がり、動作が終了します。ただし、早送り・巻戻し時は自動で終了しません。故障の原因となることがありますので、そのまま放置せず、必ず停止ボタンを押して動作を終了させてください。

●モード切り換えについて

- ・カセットテープ再生中にモード切換ボタンを押すと、ファンクション自体は切り換わりますが、テープはそのまま走行し続けます。必ず停止ボタンを押してテープの走行を止めてから、ファンクションを切り換えてください。
- ・テープ以外のファンクション使用時に、カセットテープの再生ボタン、早送りボタン、巻戻しボタンのいずれかを押すと、「TAPE」ファンクションになります。

●再生や早送り・巻戻しをしているときは、絶対にカセットドアを開けないでください。

●ACアダプターにて使用中に早送り・巻戻しでテープが最後まで行くと、ディスプレイに「LOW」マークが点滅表示されますが、故障や異常ではありません。

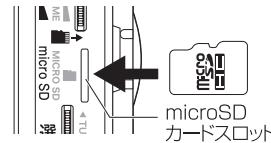
●使い終わったら、必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。

microSD カードを再生する

microSDカードを抜き差しするときは必ず電源が切れた状態で行ってください。データの破損や本機の故障につながるおそれがあります。

重要 何もファイルが記録されていないmicroSDカードは、本機で認識することができません。
事前にパソコンなどから任意のMP3ファイルをコピーしてから、ご使用ください。

- 電源が切れている状態で、差し込む向きに注意しながら、microSDカードをmicroSDカードスロットに差し込みます。
カチッと音がするまで奥に差し込んだ後、指を離します。
- 電源スイッチを「入」に合わせます。
電源が入り、ディスプレイに「Hello」と表示された後、「TAPE」と「00 : 00」(動作カウンター)が表示されます。



- モード切換ボタンを数回押して「TF」にします。
本機では、microSDカード内のファイルを、「本機以外の機器で書き込まれたファイル群」と「本機で録音されたファイル群」に分けて認識し、「TF」を選んだ直後は「本機以外の機器で書き込まれたファイル群」が読み込まれます(ディスプレイに■が表示されていないときは、「本機以外の機器で書き込まれたファイル群」であることを示しています)。
ファイルを選んで再生したいときは、進むボタンまたは戻るボタンで選ぶことができます。



ヒント 本機で録音したファイルを再生したいときは、次ページの「本機で録音したファイルを再生するには」を参照して操作してください。

- 再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押します=再生開始
再生が始まると、動作カウンターが進みます。



再生が始まるとリピートマークが表示されます。リピートモードは、必要に応じて変更することができます(P12「リピートモードについて」参照)。

- 音量ダイヤルで音量を調節します。
音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



- 停止するときは、
再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押します。
ディスプレイに「II PAUS」と表示されます。もう一度押すと、再生を再開します。

ご注意 「II PAUS」表示中はモード切換ボタンなどは使えません。

- 使い終わったら、電源スイッチを「切」に合わせます。
microSDカードを抜くときは、つめ先などでいったんmicroSDカードを押し込み、カチッと音かいたら指を離すと出てきます。
必ず電源を切ってから行なってください。



本機で録音したファイルを再生するには

- 録音ファイル**
- ①録音ファイルボタンを押すと、再生対象となるファイル群を「本機で録音したファイル群」に切り換えることができます。
 - ②進むボタンまたは戻るボタンで再生したいファイルを選び、再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと再生が始まります。



本機で録音したファイルの場合
は、■が表示されます。

ヒントとご注意

「本機で録音したファイル群」から、「本機以外の機器で書き込まれたファイル群」に戻るには、モード切換ボタンを数回押してファンクションを一巡させた後、「TF」にしてください。録音ファイルボタンでは戻れません。

リピートモードについて

- リピート**
- 本機では再生開始時に全ファイルリピート再生が設定されます(ディスプレイに■が表示され、フォルダー内の全ファイルを繰り返し再生します)。再生中にリピートボタンを押すと、1ファイル再生(CD:選択／再生中のファイルを繰り返し再生)になります。もう一度押すとマークが消え、リピート解除(最後のファイルまで再生した後、再生停止)となります。

進むボタン・戻るボタンについて

- 再生中に進むボタンを押すと次のファイルを再生します。また、再生中に戻るボタンを押すと一つ前のファイルを再生します。
- 一時停止中は、進むボタン・戻るボタンの操作はできません。再生中に操作してください。

microSD カードに録音する

- microSDカードを抜き差しするときは必ず電源が切れた状態で行ってください。データの破損や本機の故障につながるおそれがあります。
- 録音データは、microSDカード内に生成される「Jlrec」フォルダー内に、「rec0000」という名前で保存されます（0000は録音順に0001、0002と変化）。ただし、本機ディスプレイではフォルダーネーム表示やファイル名表示はありません。
- 録音を始める前に電池残量をご確認ください。残量が少なくなると、録音にノイズが入ったり、途中で録音が止まる場合があります。
- 録音を始める前にmicroSDカードの空き容量をご確認ください。
- 録音開始後に再度録音ボタンを押すと、フリーズ状態（ボタン操作ができないなど）になる場合があります。その場合は、一旦電源を切り、しばらくしてから電源を入れ直してみてください。

ラジオ放送を録音する場合

- 電源が切れた状態で、事前にmicroSDカードを本機に装着してください。
 - 録音レベルは一定に調節されますので、音量ダイヤルを操作しても影響はありません。
- 重要** 何もファイルが記録されていないmicroSDカードは、本機で認識することができません。
事前にパソコンなどを使って任意のMP3ファイルをコピーしてから、ご使用ください。

- 1 本機の電源を入れた後、モード切換ボタンと選局ダイヤルを操作して、録音したい放送局を受信します。



- 2 録音を始めたいところで録音ボタンを押します。



ヒント 録音中に再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと、録音を一時停止します。一時停止中にもう一度再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと、録音を再開します。

- 3 録音を終了するときは、もう一度録音ボタンを押します。

録音が終了したあとは、ラジオの受信が続きます。

- 4 使い終わったら、電源スイッチを切に合わせて電源を切れます。



録音マイクを使って音声を録音する場合

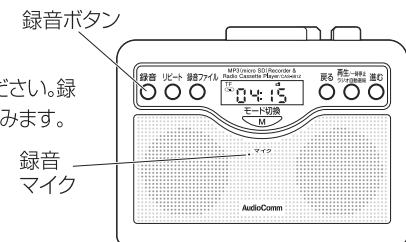
- 電源が切れた状態で、事前にmicroSDカードを本機に装着してください。
 - 録音レベルは一定に調節されますので、音量ダイヤルを操作しても影響はありません。
- 重要** 何もファイルが記録されていないmicroSDカードは、本機で認識することができません。
事前にパソコンなどを使って任意のMP3ファイルをコピーしてから、ご使用ください。

- 1 電源を入れた後、モード切換ボタンを押して「TF」にします。



- 2 録音ボタンを押すと録音が始まります。

録音するときは、録音マイクを音源に向けてください。録音中は「REC」が表示され、動作カウンターが進みます。



ヒント 録音中に再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと、録音を一時停止します。一時停止中にもう一度再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを押すと、録音を再開します。

- 3 録音を終了するときは、もう一度録音ボタンを押します。



録音を終了すると

- ①で「本機以外の機器で記録されたファイル群」が表示されている状態から録音を開始した場合は、本機以外のファイル群が再生されます。
- ①で録音ファイルボタンを押して「本機で録音したファイル群」にし、録音を開始した場合は、本機で録音したファイルのうち、いちばん古いファイルの再生が始まります。
いずれの場合も、必要に応じて、停止（再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタン）やファイル選択（戻るボタン、進むボタン）などの操作をしてください。

- 4 使い終わったら、電源スイッチを切に合わせて電源を切れます。



microSD カードに録音する(つづき)

カセットテープの音楽などを録音する場合

- 電源が切れた状態で、事前にmicroSDカードを本機に装着してください。また、事前にカセットテープを本機に入れ、録音を始めたいところの少し手前までテープを送っておいてください。
- 録音レベルは一定に調節されますので、音量ダイヤルを操作しても影響はありません。

重要 何もファイルが記録されていないmicroSDカードは、本機で認識することができません。
事前にパソコンなどを使って任意のMP3ファイルをコピーしてから、ご使用ください。

- ① 本機の電源を入れた後、「TAPE」が選ばれていることを確認します。



- ② カセットテープの再生ボタンを押した後、
すぐに録音ボタンを押します。
録音が始まると「TF」と「REC」が表示され、動作
カウンターが進みます。



- ③ 録音を終了するときは、もう一度録音ボタンを押します。
録音が終了したあとは、カセットテープの再生が続けます。
必要に応じて停止などの操作をしてください。



- ④ 使い終わったら、電源スイッチを切に合わせて電源を切ります。

microSD カードに録音したファイルを削除する

本機で録音したファイルを再生中に、再生／一時停止／ラジオ自動選局ボタンを長押しすると、
ファイルが削除されます。



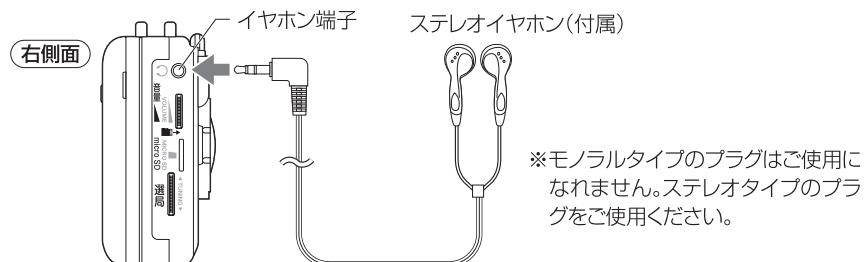
一時的に「dEL」が表示されて削除され、しばらくすると次の
ファイルの再生が始まります。

ヒントとご注意

- 「本機以外の機器で書き込まれたファイル群」は本機では削除できません。パソコンなどで操作してください。
- ファイルを削除すると、それ以降のファイルはディスプレイに表示される番号が繰り上がりります。
- 削除したファイルは復旧できませんのでご注意ください。

イヤホンで聞くときは

ステレオイヤホン(付属)のプラグを、右側面のイヤホン端子に接続します。接続するとスピーカーからの音は出力されなくなります。



*モノラルタイプのプラグはご使用になれません。ステレオタイプのプラグをご使用ください。

静電気に関するご注意

空気が乾燥する時期にイヤホンを使うと、耳にびりびりと痛みを感じることがあります
が、これはイヤホンの故障ではなく人体に蓄積される静電気によるものです。静電気の
発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、影響が軽減されます。

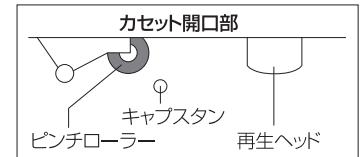
お手入れのしかた

ヘッド部のお手入れ

ヘッドやキャップスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残る、などの症状が出ます。定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキットでヘッドや
ピンチローラー、キャップスタンなどの汚れを拭き取ります。
なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてから
テープをセットしてください。



キャビネットのお手入れ

- キャビネットや操作ボタンなどが汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後に乾拭きをしてください。



- シンナーやベンジン、アルコールなどは使わないでください。

変質したり、塗料がはげることがあります。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしいときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店、または、弊社修理ご相談センターにご連絡ください。

症状	チェック項目
動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ●乾電池が正しく入っていますか。 ●乾電池が消耗していませんか。 ●(ACアダプター使用時)ACアダプターがはずれて(ゆるんで)いませんか。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●音量が最小になっていますか。 ●イヤホン端子にイヤホンが差し込まれていませんか。
カセットドアが閉まらない	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットが逆向きではありませんか。
テープ走行が不安定 テープが走行しない	<ul style="list-style-type: none"> ●テープがたるんでいませんか。 ●乾電池が消耗していませんか。
テープが機械に巻きつく	<ul style="list-style-type: none"> ●ピンチローラーやキャップスタンが汚れていませんか。 ●テープがたるんでいませんか。 ●カセットドアがきちんと閉まっていますか。
ラジオに雑音が入る	<ul style="list-style-type: none"> ●近くで携帯電話を使用していませんか。 ●テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機をテレビから離してください。
microSDカードを 差し込めない	<ul style="list-style-type: none"> ●差し込む向きは正しいですか。
microSDカードを 認識しない	<ul style="list-style-type: none"> ●microSDカードスロットに正しく装着されていますか。奥までしっかりと差し込まれていますか。 ●ファイルが正しく記録されたmicroSDカードを使っていますか。空のmicroSDカードを装着していませんか。 ●MP3形式以外のデータが含まれていませんか。 ●microSDカード内のデータが壊れていませんか。 ●規格外のmicroSDカードを使用していませんか。
録音できない 途中で録音が終了する	<ul style="list-style-type: none"> ●microSDカードの空き容量が少なくなっていますか。
ボタン操作ができない (フリーズ状態)	<ul style="list-style-type: none"> ●連続して同じボタンを押していませんか(電源を切り、しばらくしてから入れ直してみてください)。 ●乾電池が消耗していませんか。

主な仕様

電源	DC3V(単3形乾電池×2本／別売) 外部電源 DC3V 500mA ⊖●⊕(ACアダプター／別売)																										
実用最大出力	0.5W+0.5W																										
スピーカー	口径40mm×2																										
ラジオ受信周波数	AM : 522~1620kHz	FM : 76~108MHz																									
アンテナ	AM : 内蔵フェライトバーアンテナ	FM : ロッドアンテナ																									
microSDカード	最大32GB																										
録音ファイル形式	MP3																										
MP3再生ビットレート	32~320kbps																										
MP3録音ビットレート	48kbps																										
イヤホン端子	φ3.5mmステレオミニプラグ※1																										
乾電池での連続 使用時間の目安※2	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">再生</th> <th colspan="2">録音※3</th> </tr> <tr> <th>スピーカー</th> <th>イヤホン</th> <th>スピーカー</th> <th>イヤホン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AMラジオ</td> <td>16時間</td> <td>20時間</td> <td>12時間</td> </tr> <tr> <td>FMラジオ</td> <td>19時間</td> <td>26時間</td> <td>17時間</td> </tr> <tr> <td>microSDカード</td> <td>17時間</td> <td>19時間</td> <td>46時間</td> </tr> <tr> <td>カセットテープ</td> <td>6時間</td> <td>10時間</td> <td>5時間</td> </tr> </tbody> </table>			再生		録音※3		スピーカー	イヤホン	スピーカー	イヤホン	AMラジオ	16時間	20時間	12時間	FMラジオ	19時間	26時間	17時間	microSDカード	17時間	19時間	46時間	カセットテープ	6時間	10時間	5時間
再生		録音※3																									
スピーカー	イヤホン	スピーカー	イヤホン																								
AMラジオ	16時間	20時間	12時間																								
FMラジオ	19時間	26時間	17時間																								
microSDカード	17時間	19時間	46時間																								
カセットテープ	6時間	10時間	5時間																								
外形寸法	幅122×高さ91×奥行43mm																										
質量	約246g(乾電池含まず)																										
付属品	ステレオイヤホン、保証書付取扱説明書																										

※1 イヤホン端子への接続にはモノラルタイプのプラグをご使用になれません。ステレオタイプのプラグをご使用ください。

※2 乾電池での連続使用時間の目安は、アルカリ乾電池使用(新品、音量：中程度)の場合の目安です。乾電池の種類や使用状況によって異なります。

※3 AMラジオ、FMラジオ、カセットテープの録音時間は、各ファンクションを音源としてmicroSDカードへ録音するときの目安です。また、microSDカードは、録音マイク(内蔵)で外部の音を録音するときの目安です。ただし、いずれもmicroSDカードの容量を超えて録音することはできません。

※本製品は、FMラジオ受信時及びステレオ音声のMP3ファイル再生時はスピーカー、イヤホンともにステレオ出力が可能ですが、それ以外のモード、ファイル再生時はモノラル出力となります。

※本製品の仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※本取扱説明書で使用するイラストは、実際の機種と一部外観が異なっている場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。